

運動会作文紹介③

「運動会」

C組

「C組、十九回」パチパチと拍手がなった。楽しかった。大縄が終わり私はそう思った。

私は、今回の運動会を通して考えが変わったことがある。それは順位にとらわれず、全力で楽しめたことだ。大縄の練習が始まった頃、私は一番前でうまく列がつかれず、縄が少ない分跳ぶ高さも人一倍高く跳ばなければならず、大変で足を引っ張ってしまうと思い、不安が勝っていた。次の練習、あまり良い気分ではない中、大縄の練習が始まった。自分の位置につくと、後ろの子に、「一番前で人一倍跳んですごい。ありがとう。無理しないで頑張ろう。」と話しかけてくれた。私は不安が消えた。気持ちを理解してくれる人がいてくれてとても気持ちが楽になった。それから私は声を出して、昨日跳んだ回数より今日跳んだ回数を増したいと思うようになった。跳んでいて楽しいと思うようになった。運動会当日、私たちは声を出して跳び続けた。とても楽しい。順位発表だ。C組3位。やったとC組みんなでよろこぶことができた。私は一声かけてくれた子のおかげで頑張ることができた。つまり相手の気持ちを考えて行動することの大切さを学んだ。

これから他に合唱祭、スポーツ大会などたくさんある。全力で楽しむためにはまだ新たな学びがたくさん見つかる。今回の運動会で相手の気持ちを考えて行動することの大切さを知ったからこそ次新たな考えが待っている。



「運動会」

C組

私は、運動会の練習で初めて大縄をしました。始めはタイミングをはかるのが、難しくて数回跳んで縄に引っかかってしまいました。ですが、授業で練習を重ねていくうちに、二十回など引っかからずに跳べるようになりました。運動会の合同練習の大縄では、練習の時よりも引っかかってしまい上手にできませんでしたが、予行練習の時は、引っかからずに跳びきることができました。そのときは、上達したと実感し達成感がありました。

運動会当日は、緊張して練習のときのように跳べませんでしたが、大縄の合計得点が前回よりも上がって三位になったのがとても嬉しかったです。

(次のページに続く)

全員リレーのバトンの受け渡しの練習では、大縄のようにつまづく所がなく、距離を見計らい「ゴー」と「はい」のタイミングに気をつけながら、スムーズに後続者に受け渡すことができました。本番でも練習と同じようにバトンを渡すことができました。

運動会では、みんなと協力して行事を完成させて楽しむことができました。他の学年の中では、一年生の新しい競技のローハイドが印象に残りました。ローハイド自体見るのが初めてだったのもありますが、一年生が最後まであきらめずに競技に取り組む姿が「かっこいい」と思いました。

私は運動が苦手ですが、今回の運動会を通してみんなと協力し、上手にできないところも少しあったけど、楽しく取り組むことができました。またみんなと打ち解けて合い、の調子で合唱祭も協力して楽しく取り組みたいと思います。



いじめ反対運動「ピンクシャツデー」

今週水曜の道徳は、生徒会の取り組みでいじめについて全校生徒で考えました。「ピンクシャツデー」は、カナダのある学校で起きた実際の出来事が基になっています。生徒会長がオンラインで話をした後、いじめに対する反対の意思を行動として示したことについてクラスで考え、ピンクのシャツにいじめに対する考えを書きました。

生徒の感想より

いじめられている人の気持ちを考え、ただ傍観しているだけではなく、いじめている人にやめろよと言ったり、それでもだめなら信頼できる大人の人に伝えるよう行動したい。

私は、いじめがおこるのはいじめている側以外にもまわりで見ている人も悪いと思います。いじめている人は自分はそんなにやっていないつもりでも受けている人は心を痛めたり、自信がなくなったりしてしまう。見ている人も同じで止めるのは勇気があるかもしれないが、注意などなら言えると思うから、私はいじめられている人の立場に立って自分は何をすべきなのかを考えて行動したいです。自分の視野を広くしたいです。

